

短報

岡山県岡山市で発見されたホンゴウソウ (ホンゴウソウ科)

山尾 僚¹・波田善夫²

Discovery of *Andruris japonica* from Okayama City, Okayama Prefecture, Japan

Akira YAMAO¹ and Yoshio HADA²

Abstract: We found *Andruris japonica* (Makino) Giesen in Yokoikami, Okayama City, Okayama Prefecture. The plant is designated as an endangered species not only prefecturally but nationwide all over Japan. Our finding of *A. japonica* is the third record in Okayama Prefecture. The plants were on the floors of secondary forest dominated by broad-leaved evergreen *Quercus glauca* and *Ilex chinensis*, *I. pedunculosa* and deciduous *Q. serrata*.

キーワード：岡山県，RDB，絶滅危惧，腐生植物

はじめに

ホンゴウソウ *Andruris japonica* (Makino) Giesen は、ホンゴウソウ科ホンゴウソウ属に分類される。高さは3–13cmであり、小さな多年草の腐生植物である。暗い林床の落ち葉の間にはえ、本州(関東以西)・四国・九州・琉球の森林に、ややまれに分布する(山下ほか, 2000)。

本種は、「改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物」(環境庁, 2000)で絶滅危惧IB類(EN)に指定されたが、2007年に見直された環境省のレッドリスト(<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648> 2007.12.確認 環境省)では、よりランクの低い絶滅危惧II類(VU)への指定に変更された。岡山県の「岡山県版レッドデータブック」(岡山県, 2003)では、絶滅危惧種に指定されている。

ホンゴウソウは、岡山県内では今まで2例の確認報告がある。1999年に岡山市の半田山で初めて約10株が発見され(狩山, 2000)、次に2004年に高梁市で確認された(小橋, 2005)。著者らは、2007年8月23日に岡山県岡山市横井上の岡山理科大学自然植物園において、植生調査とアリ相調査をおこなった際に発見した。本報告は、岡山県で3例目となるホンゴウソウの生育確認について報告する。

ホンゴウソウについて

今回発見したホンゴウソウは、地上茎の高さが4cmほどで(図1-a)、根の長さは約3.5cmであった。長さ1cmほどの総状花序をつくり、花序の上部に雄花(図1-b)、下部に雌花を付けていた(図1-c)。雌花のいくつかはすでに結実していた。果実は結実して

1 〒700-0005 岡山県岡山市理大町1-1 岡山理科大学大学院総合情報研究科生物地球システム専攻
Master's Program in Biosphere-Geosphere System Science, Graduate School of Informatics, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Okayama, 700-0005 Japan

2 〒700-0005 岡山県岡山市理大町1-1 岡山理科大学総合情報学部生物地球システム学科
Department of Biosphere-Geosphere System Science, Faculty of Informatics, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Okayama, 700-0005 Japan

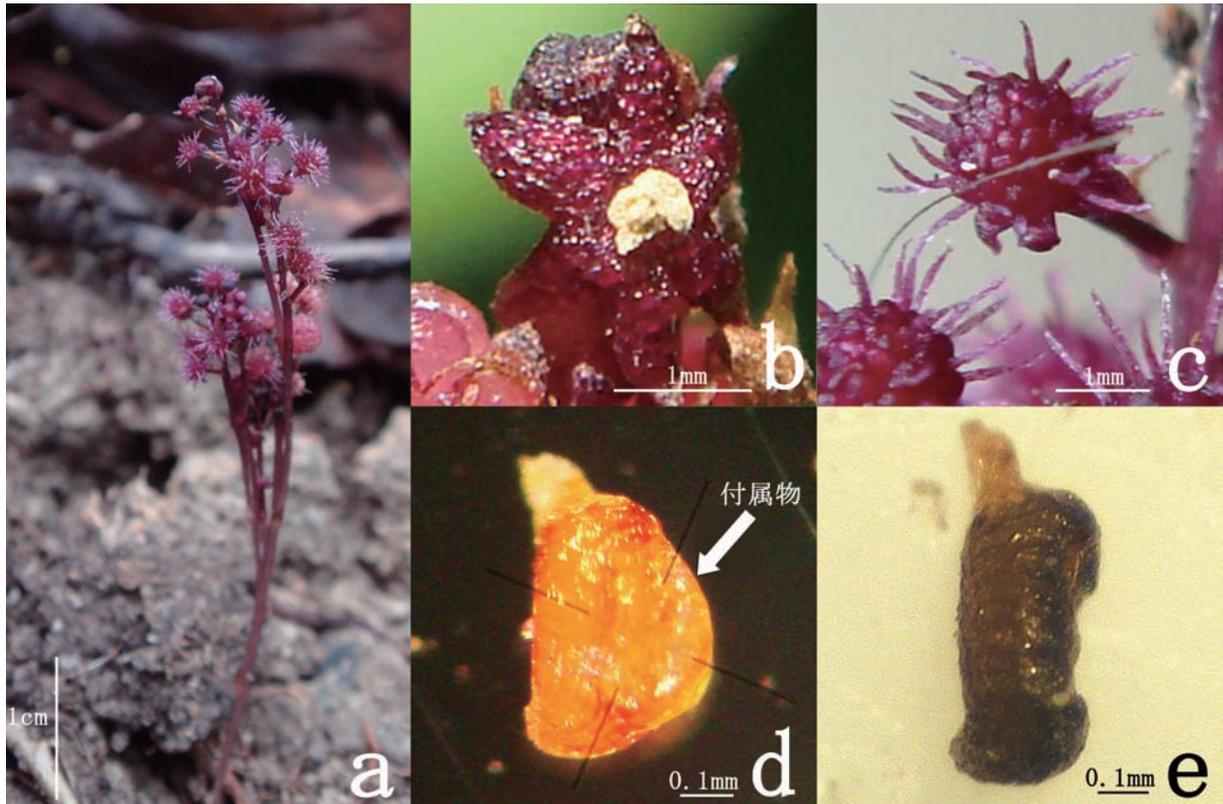


図1. 岡山県岡山市産ホンゴウソウ *Andruris japonica* (Makino) Giesen. a:地上茎. b:雄花. c:雌花. d:種子. e:付属物が萎縮した種子.

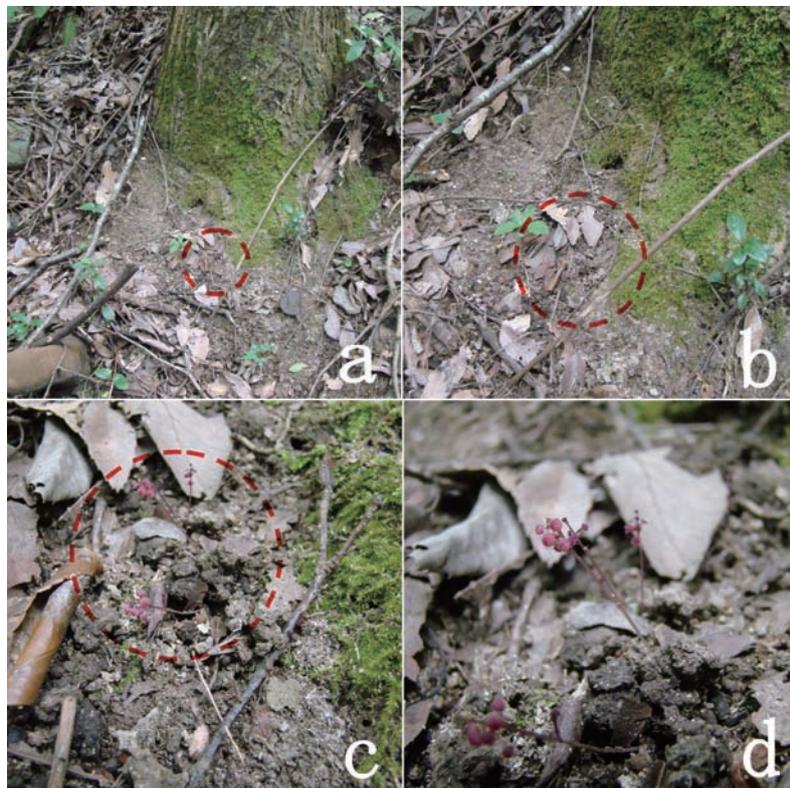


図2. ホンゴウソウの生育場所. a:コナラの根元に生える様子. b:コケ植物のない場所に生える様子. c:コケ植物と落葉の間から生える様子. d:地面から直接生える様子.

数日たつと表皮が割れて、内部の種子がのぞいた。種子は、長径約0.7mm、短径約0.3mmで、狭倒卵形で扁平であった。半透明の付属物があり(図1-d)、付属物の中には液体が入っていた。そして、付属物は乾燥によって萎縮した(図1-e)。

生育地は、岡山市郊外の二次林であり、アラカシ・ナナミノキ・ソヨゴなどの常緑樹が優占する林分やコナラの優占する林分にみられた。いずれも北向きの斜面の適潤な環境であり、林冠は閉鎖され、草本層があまり発達していない林内環境であった。周辺を探索したところ、500m²ほどの範囲に合計20個体あまりの生育を確認した。それらのほとんどの個体は開花し、中には種子をつけているものもあった。

今回のホンゴウソウの生育状況を図2に示す。図2のa~dは一本のコナラの根元を徐々に拡大して撮影したものである。今回観察されたホンゴウソウの多くが、このような木の根元などの落葉が堆積していない場所に共通して生育していた(図2-a)。落葉堆積がない場所にはコケ植物も生育していたが、両者は混生していなかった(図2-b)。本種は、非常に小型であるため、落葉やコケ植物によって被覆される環境では生育が困難であると考えられた。

謝辞

今回ホンゴウソウの発見にあたり調査地の案内をしてくださった岡山理科大学大学院総合情報研究科の高橋和成氏に感謝する。

引用文献

- 環境庁自然保護局野生生物課編(2000)。「改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8植物I(維管束植物)」。16pls. 366pp., (財)自然環境研究センター, 東京。
- 狩山俊悟(2000)。岡山県初記録のホンゴウソウ。しぜんくらしき, 32: 24。
- 小橋理絵子(2005)。岡山県2ヵ所目のホンゴウソウ発見記。しぜんくらしき, 52: 2。
- 岡山県生活環境部自然環境課・(財)岡山県環境保全事業団(2003)。「岡山県版レッドデータブック—絶滅のおそれのある野生生物—」。12pls. 346 pp., (財)岡山県環境保全事業団, 岡山。
- 山下貴司(2000)。ホンゴウソウ科。佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫編, 「日本の野生植物—草本I 単子葉類」: pl. 10, pp. 19-20. 平凡社, 東京。

(2008年1月16日受理)

